



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamishirane/>



令和4年11月30日
横浜市立上白根小学校
【12月号】



未来を創る子どもたち

校長 山崎 由美

11月9日に学校運営協議会を開催しました。その会に先立ち、6年生が協議会の委員の方々に自分たちが総合的な学習で企画していることをプレゼンテーションし、意見を聞かせていただく機会を設けました。なぜかという、6年生の子どもたちから要望があったからです。企画の主旨は「地域を盛り上げるためのイベントを開催したい」でした。6年生にこの企画が対象にしている「地域」とは誰をさしているのか、「盛り上げる」というのはどういう状態なのかということを知りました。子どもたちから返ってきたのは、「地域」とは小さい子から高齢の方までを指し、「盛り上げる」というのは、楽しんだり元気がでたりするということでした。意見を聞かせてもらう機会を作る条件として、本気の提案をすることとしました。委員の方たちにも事前に子どもの提案だから何でも通すという意識ではなく、本気で不明なところやダメ出しをして欲しいとお願いしました。

当日は6年生代表の6名が協議会に参加しました。大人ばかりの場に参加することで非常に緊張はしていましたが、自分たちが考えた内容や思いをしっかりと話す本気の提案がなされました。ただ一方的に伝えるだけではないので相手とのやり取りが必要になります。もちろん、それについての台本はありません。聞かれたことに対してその場で答えることが要求されます。大人でもこのような場ですぐに答えることは難しいはずですが、担当が一切口を挟まずに代表の子どもたちだけでやり取りを成立させました。私もドキドキしながらやり取りを聞いていましたが、質問に対して的確にこたえる姿に感心しました。協議会の委員の方々からは様々な質問や新たな視点での要望が出されました。最後に代表の子どもから「皆様からいただいた貴重な意見を取り入れて、さらにより企画していきます。」というまとめの言葉まで言ってプレゼンテーションを終了しました。

その後、委員の方々に感想を聞いてみると「子どもの力に驚いた」「地域に対する子どもたちの考えや思いがともうれしかった」「今までは子どもはかわいくて庇護すべき存在だと思っていたけれど、地域の活動ももっと子どもたちに頼って、一緒に考えながらやる余地を作っていきたい」など今回の子どもたちの姿から、地域の方々もこれからの子どもたちとのかかわり方を考え直すきっかけになったようです。

今回のことで、子どもの考えや力を社会に取り入れると大人の社会に新しい風を吹かせることができ、さらに子どもにとっても未来を創るために自分たちが必要とされていることを実感する機会になることがわかりました。これから目指す教育は、一つの正解を見つける力をつけることではありません。よりよい答え(最適解)をみんなで話し合いながら見つけていく力をつけることです。これからきっと上白根のまちには子どもが考えたことが取り入れられ、活躍する場が増えていくことと思います。子どもたちの手によって未来がどう変わっていくかとても楽しみです。